

ほっかいどうの社会保障

2011年10月8日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:011-758-4666

国保と介護の市町村アンケート開始！

各自治体でも改善に向けて懇談、要請をすすめてみましょう

北海道社保協では、第2回運営委員会で、各市町村で国民健康保険や介護保険計画づくりなど実態をつかみ、各地の改善につなげるために、市町村アンケートを行うことにしました。10月6日全道全市町村へ二つの調査用紙を送付しました。回答期限を10月下旬までをお願いしています。結果が出しだいお知らせいたします。調査用紙は、北海道社保協のホームページのトップに「自治体調査」というバナーにも掲載しています。

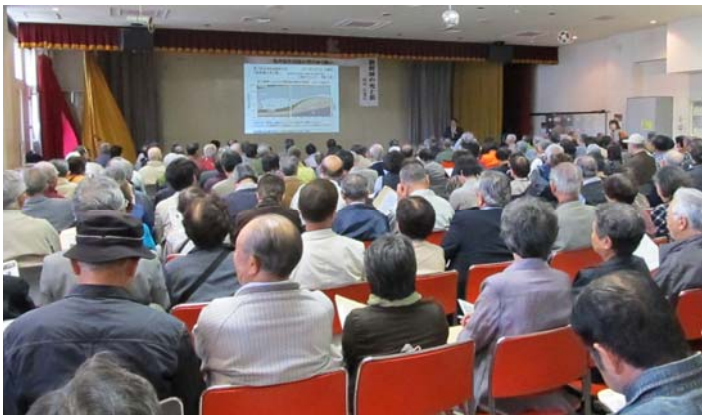
各市町村で、国民健康保険や介護保険計画などを拡充する上で、その実態をつかむことは重要ですので、各地で直接、懇談なども持って、この調査項目を参考にしていただければと思います。

記入用紙	国民健康保険に関する調査票	【2011年秋実施】
自治体・団体名()	担当課()	
担当部署()	問い合わせ先電話番号()	
*()は、該当するものに○印を記入下さい		

「第5期介護保険事業計画」に関する自治体アンケート			
北海道社会保障推進協議会			
自治体名	担当課名	担当者	
連絡先	電話番号	FAX	アドレス

第2回北海道高齢者保健福祉計画・介護保険事業支援計画検討委員会は10月25日(月)午後3時からです。

高齢者が大切にされ、豊かに過ごせる社会を 北海道高齢者大会 350人が参加



10月1日、「東日本大震災へのすみやかな救援・復興と脱原発」などをテーマに、第15回北海道高齢者大会が開かれ、350人以上が参加しました。

記念講演では、北海道がんセンター院長の西尾正道さんがユーモアを交えて分かりやすく「放射線の光と陰」をテーマに話しました。西尾さんは、「人間は毎日5000個も生まれるガン細胞とたたかい、全勝している。しかし、その一つでも敗れるとガンは広がってしまう。早期のガンならば治る可能性が高い」と、定期的にガン検診を受けるよう呼びかけ、近年発展してきた放射線治療の有用性と、診療報酬などの問題点について述べました。また、『原発事故による放射線量は放射線診断や治療よりも影響が低い』などの報道について、「放射能が体内に留まる内部被爆と、体を通り過ぎる放射線とは体への影響が違う」と指摘。福島原発事故の対策について、「事故現場周辺は数百年間戻ることができない地域もある。国が土地を買い上げ、そこに放射能に汚染された物を貯蔵することを考えた方がよい」と提案し、脱原発を訴えました。

午後からは、介護保険問題、孫と遊べる理科実験、被災者支援～私たちに何ができるかの3つの分科会や講座「社会保障と税の一体改革」、押し花やさき織などの講習、うたごえの広場など盛りだくさんの内容が行われ、元気に学び交流しました。大会では「高齢者には体験と実績と知恵がある。…世直しのため、…歴史の前進のために連帯して行動を起こそう」のアピールを確認しあいました。



好評発売中 『新たな福祉国家を展望する』

福祉国家と基本法研究会（井上英夫・後藤道夫・渡辺治）編書 定価1500円（+税）

社会保障拡充のための運動のテキストです。社会保障基本法・社会保障憲章も提言しています。北海道社保協でも取り扱っています。